

海外支援情報

大地震が発生した支援国ミャンマーとバヌアツの近況報告

★ ミャンマー連邦共和国

保健省と現地 UNICEF 事務所と協力し、1996 年から継続してワクチン支援を行ってきたミャンマー。2017 年、私たちが実施した最後の視察で訪問した全国各地の診療所には、できるだけ多くの子どもたちに必要なワクチンを届けるため、懸命に働く看護師の姿がありました。そこでは、子どもたちの笑顔と夢を守るために、ワクチンで助かるちいさな命を救う取り組みが、着実に広がっていました。

しかし、2021 年に起こった軍事クーデターが、環境を一変させてしまいました。それ以降は視察も実施できず、今でも国内の多くの地域では、民主化を求める国民と国軍の内戦が続き、特に少数民族の子どもたちが、水や食料、ワクチン接種を含む医療、学校教育を受けられないまま、取り残されています。



© UNICEF Myanmar/2021/NHtet



© UNICEF Myanmar/2021/NHtet

そのような状況に追い討ちをかけるように、2025年3月、ミャンマー中部の大都市マンダレー近郊で、推定震度7の大地震が発生し、3,000人以上が命を落としました。地震発生直後に、被災地域の保冷库の状態を確認した、現地UNICEF事務所からは、約20台の故障が見つかり、そのうち3台を入れ替えた他、ソーラー保冷库5台を届けた、との報告を受けています。

また、ワクチン接種が再開されたのは一部地域のみで、被災地域すべての子どもたちが必要な支援を受けられるよう、取り組みが進められる中、今年4月には、シャン州で3歳の女の子にポリオの発症が確認され、感染が拡大している可能性が高まっています。ポリオは発症すると治療することができません。JCVでは、ミャンマーの子どもたちの笑顔と未来を守るため、これからもできる限りの支援を続けていきます。

(写真上:被災したマンダレーの街/写真下:避難所で支援を待つ母子)



© UNICEF 2025

© UNICEF 2025

バヌアツ共和国

2010年より継続支援している南太平洋のバヌアツでは、電気が通っていない離島も多く、JCVの支援で贈ったワクチンとソーラー保冷库が、子どもたちの笑顔を守っています。

昨年10月に実施した視察で訪れた、首都ポートビラ市中心部の母子保健クリニックでは、40組ほどの親子が順番を待ち、ワクチン接種や診療を受けていました。しかし、視察の2カ月後に発生した地震により、中央ワクチン保冷库や母子保健クリニックの建物も被害を受け、半年にわたる補修工事が進められています。

今回の地震では、電線が切れ、電力の復旧に時間が掛かった地域も多くありました。地震だけではなく、毎年のようにサイクロンの被害も受けるバヌアツでは、ソーラー保冷库への入れ替えを進めるなど、自然災害が発生しても、子どもたちのためのワクチンが守られる環境づくりが求められています。



ソーラー保冷库の発電機

クリニックでワクチン接種を待つ母子

国内活動情報

＼スマホで1円(1ポイント)からご寄付できるようになりました／

Yahoo! ネット募金

 PayPay

 POINT

PayPay残高(PayPayマネー)、Vポイント、クレジットカードをお使いいただけます。

